



新しい風



にかほ市との交流を深めたい

生活クラブ神奈川
常務理事
半澤 彰浩 氏

にかほ市の風で作った電気を首都圏の私たち生活クラブが使うなかで、エネルギーを通じた新しい地域間交流、連携をすすめていきたいと考えています。

昨年10月に、生活クラブ員21人がにかほ市を訪れシンポジウムと交流を行いました。にかほ市民のみなさんからの歓迎を受け、首都圏とにかほ市の距離がグッと縮まったように感じました。生活クラブ風車の『夢風』という愛称もにかほ市の小学生270人の応募から生活クラブ組合員の投票で決定しました。

生活クラブ風車建設記念としてにかほ市の産物を首都圏4単協で取り組む事や、にかほ市物産展を首都圏で行う予定です。

生活クラブは首都圏の市民が出資し運営している非営利の協同組合です。首都圏の市民とにかほ市のみなさんと風車を軸に自然エネルギーを中心とした、持続可能なエネルギーによる市民が自治する社会づくりの一步をすすめていきたいと考えます。



22世紀の子どもたちのために

ワタミ株式会社
取締役会長
渡邊 美樹 氏

22世紀の子どもたちに笑顔があふれる社会となること、22世紀の子どもたちに誇れる日本を、世界をつくることは、企業にとっても、個人にとっても、それ以上に大切なことなどないと思います。

今回、にかほ市のワタミの夢風車『風民(ふーみん)』のプロジェクトを通じて感じたことは、日本が100%自然エネルギーで、全てのエネルギーを賄うことは可能だと言うことでした。

それぞれの地域によって最適なエネルギーや、例えば風力・水力・バイオ・太陽等々を選ぶことを政府が本気にさえなれば、2050年、つまり21世紀の半ばを目処に、自然エネルギー100%の国家を作ることが出来るでしょう。私はそれを何としてもやらねばならないと思います。

今回、その一步を踏み出しました。5月1日、にかほ市の皆さんとともに未来について考え、語り合える事を楽しみにしています。



さかのぼる事12年、この地域にとって初めてとなる風力発電施設が仁賀保高原に誕生した。同高原はその昔、豊かな石油資源に恵まれていたが、需要増加にもなう乱掘で生産量は減少していき、オイルショックを契機に日本全土での新エネルギー開発が注目され、昭和54年、平均風速約7mの同高原が目にとまる。そして、真つ黒な石油が、真つ白な風車15基へ姿をかえた。行政には固定資産税や、運営会社より多額の協賛金が納められることになる。当時国内最大級の風力発電施設とあり観光客も飛躍的に増えた。

新たな風車が2基 この度、仲間入りした2基の風車は、外食産業大手グループのワタミ株式会社(東京都)と、首都圏で20万人の会員をかかえる生活クラブ首都圏4単協により、それぞれ建設されました。風車1基の総事業費は約5億円で、これにより高額の固定資産税が見込まれることになります。

再生可能エネルギーへのシフトは原発事故により急加速しました。しかしエネルギーの大消費地である首都圏には風力発電施設の建設が不可能な状況下にあります。そこで生まれたのが、地方でエネルギーを生み出し、首都圏で消費するという地産都消という思想です。農産物や海産物では当たり前のことではあります。再生可能エネルギーとしては一般的ではありません。エネルギーが結ぶ地方と都市の『交流』という風が、今にかほ市から全国へ、風車のようにゆっくと回り始めます。

記念イベントのお知らせ **ワタミ 5月1日**・生活クラブ **5月11日**

生活クラブ風車建設・稼働記念講演会

日時 5月11日(金) 開場 15:00 開演 15:20
場所 スマイル
入場 無料
講演 『持続可能なエネルギー社会に向けた生活クラブ風車実践の価値』
講師 環境エネルギー政策研究所 山下主任研究員

フォーラム 『持続可能なエネルギー社会に向けて』
対談者 生活クラブ東京吉田理事長、生活クラブ神奈川鈴木副理事長、にかほ市長

問合せ先 企画情報課 ☎43-7510

ワタミの夢風車『風民(ふーみん)』竣工記念講演会

日時 5月1日(火) 開場 13:00 開演 13:30
場所 仁賀保勤労青少年ホーム
入場 無料(入場整理券が必要です)
講演 『風に込めた思い』
～22世紀の子どもたちのために～
講師 ワタミ株式会社 渡邊美樹取締役会長

パネルディスカッション 『地域と再生可能エネルギー』
パネラー 北都銀行町田会長、にかほ市長ほか
※整理券は市役所各庁舎市民SCにて4月18日(木)より配布。お早めにご予約。
先着100名